

# 地域スポーツフェスタ実施報告

## 柳井地域総合型クラブフェスタ

2月15日（土）、プロレスラーの4代目タイガーマスクを招き、講演会とトークセッションが、柳井クルーズホテルを会場に開催されました。柳井市を中心に、田布施町、平生町、周防大島町、上関町から約150名が来場されました。



I部では、『4代目タイガーマスクの知られざる世界』と題し、講演会が行われました。入退場の時にはテーマ曲が流れ、プロレスのリングのような雰囲気を感じられました。タイガーマスクは新日本プロレス所属の覆面レスラーです。「トラの面をつけているのに、読売ジャイアンツの大ファンで原辰徳氏が好きで、野球にあこがれていたこと」や「原辰徳氏が子どもの頃サッカーをしていたという話を聞き、ご自身もサッカーをしていたこと」、「初代タイガーマスクであり師匠である佐山聡氏の練習がとても厳しかったことや師匠から“タイガーマスクだからといって偉くもなんともない。マスクを脱げば普通の人間。いつも謙虚でいるように”という言葉が大事にされていること」など、楽しいエピソードを交えたお話で、たくさんの笑顔が見られました。また、会場に来ていた子どもたちに向けては、「夢を持つこと、あきらめないこと、そして、何においても目標までの過程が大事であること」を話されていました。

II部では、来場者に記載していただいた質問に答える形で、1対1のトークセッションが行われました。

これからの夢は？ 宝くじが当たらないかなあ～  
素顔はどんな感じ？ 芸能人で言えば横浜流星 奥様いわく宮川大輔  
好きな女性のタイプは？ 松田聖子さん 新木優子さん  
アントニオ猪木さんと10本勝負したら何本勝てる？ 五分五分と言いたい  
忘れられない試合は？ 神戸で闘った相手3人对1人の対戦  
その際に大出血して止血をしたが、次の日にATM操作中  
また流血し、他人の明細書で拭いた

など、半分冗談のような回答もあり、面白いトークセッションとなっていました。

今回のイベントは、22の企業や団体からの協賛があり行われました。これからのクラブ活動には、企業とクラブの連携というのもポイントとなってくるでしょう。

わくわく（輪く和く）通信

山口県生涯スポーツ推進センターだより

Vol.32

2020年

2月



## お知らせ

去る1月30日（金）、総合型地域スポーツクラブ山口県連絡協議会の理事会が開かれました。

まずは、スポーツフェスタの取組については、「かつては、県央に一堂に集まってイベントを開催していたが、一部のクラブしか参加しなかった。昨年度から、地域ごとに分かれての開催となったので、連携を取り合えるため非常に有効であった。」「初めは元気のなかったクラブが、少しずつやる気になり、次年度は自分たちがやってみようというところまで変わった。」など、クラブ同士のつながりだけではなく、クラブと地域などに広がっていることなど、スポーツフェスタが有効であるとの意見が出されました。

また、県連絡協議会で集めた会費の有効活用として、右のような幟（のぼり）を作成し、各クラブで活用できる配付することになりました。クラブの周知や広報のために、イベントやスポーツフェスタなどで立てられることになりそうです。



## 令和3年度から 総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度が始まります

令和2年2月5日(水)に、JAPAN SPORT OLYMPIC SQUAREにおいて、登録・認証制度説明会が開催され、最終の原案として整ったことで説明がありました。

泉 正文(日本スポーツ協会専務理事)氏から、「第2期スポーツ基本計画に基づく制度の原案を可能な限り修正してきた。子どもたちがスポーツに親しむ場、地域課題を解決できる場として、地域スポーツの在り方を考えていきたい」とのあいさつの後、スポーツ庁 久田晴生連携推進係長から、登録・認証制度の経緯と整備についての説明がありました。説明の中心は、「スポーツ実施率向上のための中長期的な施策(2019年8月決定)の4つの項目の中から、①総合型地域スポーツクラブの質的充実としての登録・認証制度と中間支援組織の整備、②総合型地域スポーツクラブの活用、支援、広報活動の2点でした。



※中間支援組織とは、県体育協会が主体となり、登録・認証制度の運用・クラブへの助言や指導・研修会の開催・広報活動などを行う組織を指しています。

**Q1 さて、「登録・認証制度」を行う理由はどんなことでしょうか？**

**A1 まずは、総合型地域スポーツクラブとして全国的に認められ、保証された団体にすることです。**

○総合型クラブの社会的認知度の向上(信頼度・安心度)

○行政における総合型クラブへの理解促進(活動場所の確保・施設の減免・広報機会の拡大・他の部局との共有など)

○ガバナンスの確立(加入基準の統一・組織運営者に係る権利と義務の明確化)

○新たな地域スポーツ体制の構築(スポーツ少年団・公認スポーツ指導者等との統合)

このような説明がありましたが、山口県内のクラブから、「クラブのステイタスを高めるためにも、公的な認定証がほしい。クラブとしても、認定証にふさわしい公益性のある活動をしたい」との声が上がっています。また、市町行政担当者から、「認定証があることで、他のスポーツクラブと区別でき、補助金の使用について説明できる。学校や公民館・市町のスポーツ施設の減免について、総合型クラブは対象外となっているケースが多い。今後、減免対象とするためにも、認証は必要である」との意見があり、認証の必要性について議論する必要がありそうです。

**Q2 「登録・認証」はどこがするのでしょうか？**

**A2 都道府県単位で審査し、全国協議会の幹事長名で認定証が発行されます。**

多くの都道府県から、認定証の発行者をスポーツ庁などの国レベルにしてほしいとの要望がありましたが、国はスポーツをガバナンスすることはないとの見解であり、あくまでも、全国のクラブで組織された「全国協議会」が登録・認証制度を行うということになるということです。

**Q3「クラブの費用や負担はどの程度あるのでしょうか？**

**A3 ○登録料として、1クラブ年間5,000円かかります。(山口県連絡協議会の年会費3,000円が別途かかります)**

全国から集まった登録料は、全国協議会の運営費として使われます。

**○登録申請するために、「申請書」「クラブの基礎情報」「総会資料(役員名簿・事業計画報告・収支予算決算など)」が必要です。**

**Q4 認証されないと総合型地域スポーツクラブと名乗ることはできないのでしょうか？**

**A4 いいえ。この制度は、全国統一の基準づくりでありながら、公的な強制力はありません。**

山口県では、これまで地域を意識したクラブづくりを進めてきました。山口県を飛び越えるような地域を想定していませんので、これまでどおりの支援をしてまいります。

3月中には、全国協議会で決定される運びとなっています。ご質問やご相談は、本紙の末尾に記載してある「生涯スポーツ推進センター」または、山口県スポーツ推進課(083-933-2435)までご連絡ください。

## 人がつながる 人でつながる 人がつくる



総合型地域スポーツクラブが量より質の転換を求められています。地域に根ざしたクラブの経営や活動を支えるのは人… このコーナーでは、各コーディネーターがインタビューをして、人を紹介していきます。

### 鹿野スポーツ振興会 会長 高光 修司氏

周南市鹿野地区で活動している鹿野スポーツ振興会は、平成20年の3月に設立し、もうすぐ13年目となります。クラブ名のとおり、地区の振興会を母体としたクラブです。今回は、高光会長にお話をうかがいました。

#### 鹿野地区はどんなところですか？

私自身、生まれてからずっと鹿野に住んでいますので、とても住みやすいところだと感じています。小・中・高とずっと一緒であった気の知れた仲間が近くにいますので、今でも声をかけるとすぐに集まることができます。一方で、良いことも悪いことも噂がすぐに耳に入ってきますね。最近寂しく感じることは、昔は外で遊ぶ子どもの声がよく聞こえていましたが、聞くことが少なくなったことです。隣近所との関わりが少ない時代になってきましたが、ここでは近所の人を気にかける習慣は今でも続いており、このようなところは田舎ならではのよいところだと思います。

#### スポーツとの出会い・きっかけは？

小さいころから走ることが好きでした。中学では駅伝部、高校ではホッケー部に所属し、ホッケー部では全国大会に出場しました。惜しくも敗退しましたが、とてもよい思い出となっています。社会人になってから駅伝を再開し、フルマラソンやトライアスロンにも出場していました。今では専らゴルフです。ずっと動きまわっていたこともあり、40歳の頃にスポーツ推進委員へと声をかけていただき、クラブに携わるようになりました。そして、55歳でクラブの会長となり今に至ります。クラブ以外でも役を務めており、ゆっくりしていることはあまりなく、現在も変わらず動いていることが多いですね。

#### クラブの今後の取組

現在の活動は、ジュニア向けの事業が多いですが、子どもの減少に伴い、参加者も少なくなってきました。高齢化率50%を超えた鹿野地区なので、シニア向けの事業も考えていく必要があると感じています。クラブ以外にも鹿野地区でシニア向けの事業をされている団体もありますので、その活動とは別の内容の企画を計画したり、鹿野総合支所に常駐している保健師さんと連携したりして、事業の展開を模索できればと考えています。



### 鑄銭司蔵六コミュニティスポーツクラブ 会長 梶山 由一氏

山口市南部に位置する鑄銭司地区は、明治維新の先覚者である大村益次郎の出身地です。ここで活動している鑄銭司蔵六コミュニティスポーツクラブは、平成11年に設立されました。今回は、会長の梶山氏にお話を伺いました。

#### 会長はこれまでどんなスポーツをされてきたのでしょうか？

小学校の頃は、友達と集まって、近くの河川で泳いだり、魚をとったりしていました。球技で言えば、地区のソフトボール大会に出場することでしたね。中学校では、ソフトテニス部に入部し汗を流しましたが、高校では、部活動には入りませんでした。市役所に就職してから、再びソフトテニスやソフトボールをしたり、青年団の全国大会出場を目指して軟式野球もしました。40・50代の頃には、ソフトバレーボールに力を入れていた時期もありましたね。現在は、筋力トレーニングを自主的に行い、健康管理に気を配っています。

#### クラブ設立当時からクラブに携わって感じることはどんなことでしょうか？

私が市役所の体育課所属時に、文科省の「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」を活用し、鑄銭司地区でのクラブづくりを目指すことになりました。当時は私自身若さもあり、熱意がすごくありましたね。その後は、山口市の助成金も活用しながら活発に活動し、多い時には400名近い会員がいましたが、助成金が減少するにつれ、活動内容も徐々に減ってしまいました。また、事務局を担っていた方が諸事情で辞めることになったことは、クラブにとってすごく痛手でした。事務局の存在というのは本当に大事ですね。その他の運営委員においても、後継者の育成が上手くできておらず、課題となっています。現在、30代の方が携わってくれていますので、この方を中心に若い世代の参画を期待しているところです。

#### 最近、鑄銭司地区内にグラウンドゴルフのコースをつくられたそうですね？

はい。クラブ活動で月に1回グラウンドゴルフチャンピオンマッチを開催しています。そこへ参加されている方たちが、山口市市民体育大会に出場されましたが、残念ながら勝つことができず悔しい思いをされたようです。このことがきっかけとなり、「もっと練習しよう！」という話になりました。しかし、小学校のグラウンドはいつでも使用できるわけではありません。そこで、クラブや老人会などいろいろな団体にも声をかけ、協力して団地内にある公園の草刈り等の整備を行い、いつでも使用できるコースづくりをしました。地域の人が集う場所が増えてたいへんうれしく思っています。地域の人から出てきた声をひろったり、地区で活動している団体と連携したりして、クラブ活動や鑄銭司地区の活性化にもつなげていけるとよいと考えています。



# 総合型地域スポーツクラブ 訪問日記

クラブ名	イベント名	訪問日	訪問者
すげえちや・高泊	薬草による健康講座	令和2年2月19日(水)	和田 康夫

31年度5月から開講した「薬草による健康講座(薬草講座)」のふりかえりと来年度の計画にかかわる実行委員会を取材してきました。この薬草講座は、30年度の厚狭地域スポーツフェスタが縁で生まれた新たな講座です。このフェスタをきっかけに、「大学のアカデミックな知識や方法が知りたいとするクラブ」と「大学としての地域貢献」というニーズが重なって、次の年に、「育(薬草を育てる)」「食(薬草を食べる)」「健(運動をする)」「学(薬草を学ぶ)」という4つの分野で10回の講座(月1回の土曜日)として発展したものです。



令和元年度10回の講座を開催し、35人の受講者が、薬草についての知識を学んだり、薬草を採集したりしました。中でも最も人気があった「薬草弁当づくり」では、薬草を食べることでもっと健康になりたいとの思いが寄せられたとのこと。大学としても満足の講座でしたが、来年度はさらにワクワクするような内容にしたいと、実行委員会が開催されました。

受講者のアンケートを基に、来年度については、食べる活動を2回に増やしたり、薬や健康について相談できるようにしたりするなど、参加者のアクティブラーニングを中心に構成されることとなりました。大学の先生や事務局・山陽小野田市の行政担当・クラブ関係者が集まり、知恵を出し合って教室を構成していくために熱心な話し合いが確かな実践に結びついていると思えました。5月からの開講が楽しみです。

クラブ名	イベント名	訪問日	訪問者
むぎかわ元気クラブ	元気クラブ杯ソフトバレーボール大会	令和2年2月16日(日)	和田 康夫

美祿市立麦川小学校の体育館を会場に、恒例のソフトバレーボール大会に訪問しました。かつては、無煙炭の採掘で栄えた麦川地区に「むぎかわ元気クラブ」が誕生したのが、今から9年前。現在、約200人の会員で地域交流をテーマに活動されています。いざ災害が起こった時に、助け合える地域になれることを目的として、6時間耐久ソフトボール大会やハイキングなどのイベントに加えて、今回のようなソフトバレーボール大会などを実施されています。



第7回目となる大会の様子を見ながら、真瀬会長さんと運営責任者の中本さんにお話を伺いました。

このむぎかわ元気クラブは、麦川小学校のPTAと一緒に立ち上げているので、小学生とその保護者は全員会員となっており、地域一体となった取組が展開されています。真瀬会長さんからは、開口一番、この冬休みに大阪で行われた全国中学校バレーボール大会に、県選抜の一員として、麦川在住の男子2名、女子1名が参加したとのお話がありました。スポーツ少年団の組織はクラブとは別ですが、常に連携して活動しており、子どもたちの活躍が地域の人にとって、何よりもうれしいニュースになっているようです。

ソフトバレーボール大会は、こうした中学生を含めた1部リーグと親子でチーム編成した2部リーグに分かれて行われました。特に目についたのが、高齢者はもちろんのこと、働く世代の大人の参加者が多く、後継者として関わるができる人材が集まってきていると思えました。

大会の終わりには、スポーツ少年団の保護者で用意された豚汁を参加者全員でいただきました。この豚汁を目当てに参加される人もあり、恒例行事として定着しています。

**【生涯スポーツ推進センター問い合わせ先】**

**中央生涯スポーツ推進センター(山口県体育協会)**

TEL 083-933-4697

FAX 083-933-4699